

O-157LPS 抗原		3901100		
		担当部署		
O-157LPS		微生物		
<b>検査オーダー</b>				
患者同意に関する要求事項		患者自身が採取する場合は良質の検体が採取できるように適切な採取・保存方法を十分に説明し協力を求める		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→		
	2	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→		
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		大腸菌 O157 抗原を迅速に検出するための試薬です。共通抗原をもつ <i>Citrobacter freundii</i> や <i>Salmonella Kumasi</i> (O30) が存在している場合には偽陽性を示し、 <i>Aeromonas Sobria</i> が存在している場合には、 $1 \times 10^8$ CFU/mL 以上の濃度で偽陽性を示す場合があるので十分注意する。判定が陰性となった場合でも、ただちに大腸菌 O157 の存在を否定するものではない。確定診断は、臨床症状やベロ毒素など病原因子の検査結果と合わせて担当医師が総合的に判断する。		
検査受付時間		緊急対応 (24 時間)		
<b>検体採取・搬送・保存</b>				
患者の事前準備事項		該当なし		
検体採取の特別なタイミング		特になし		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	便	細菌 採便管	なし	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		室温 採取後直ちに提出		
検体受入不可基準		検査ラベルがない検体		

保管検体の保存期間	2 週間（再検査・追加検査は要連絡）					
<b>検査結果・報告</b>						
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部					
測定時間	1～2 日					
生物学的基準範囲	陰性（－）					
臨床判断値						
基準値					単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因	該当なし					
臨床的意義	<p>下痢原性大腸菌のうち出血性大腸菌（EHEC）は Vero 毒素(VT) 産生性大腸菌とも呼ばれ最も多い血清型は O157 である。</p> <p>EHEC および HUS の発生例ではほとんどが血清型 O157:H7 または O157:H- を原因としている。</p> <p>「臨床検査法提要 改訂第 34 版 2015 年」</p>					